**仏舎利塔**

境内の一番東側には、故人の遺骨を最終的に納める場である納骨堂としての役割を果たす、大きなドーム型でレンガ造りの仏舎利塔があります。この仏舎利塔は、釈迦の遺骨を祀ることを目的とした伝統的なインドの仏舎利塔の様式で、1968年に建てられたものであり、日本の寺院ではあまり一般的ではない建造物です。仏舎利塔のすぐ南には、同様にインドにあるものの複製である、儀式に用いる石門のトラナが高くそびえ立っています。仏舎利塔は一般公開されていませんが、その珍しい建築様式は外からでも見ることができます。